

ホームページをリニューアルしました! <https://takakura-ryosei.jp/> ▶▶▶



▲西武新宿線の地下化事業の状況を聞く
(左から)岡本氏、赤羽国交相、高倉良生

赤羽国土交通相が 現場を視察

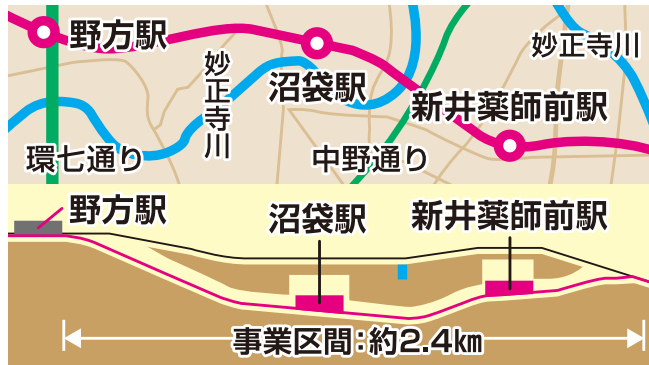
西武新宿線の地下化

中野駅の再開発

駅周辺の利便性向上に全力

5月26日、赤羽一嘉国土交通相(公明党)が、西武新宿線を地下化する事業と中野駅周辺の街づくり事業を視察しました。高倉良生は公明党の岡本三成衆議院議員、中野区議会公明党のメンバーと共に同行しました。

西武新宿線の事業は中井駅付近から野方駅付近までの約2.4kmの鉄道を地下化するものです。これにより7カ所の「開かずの踏切」がなくなり、交通渋滞の解消が期待されます。高倉は、関係者と意見



交換を重ね、国や都に事業の推進を求めるなど、一貫して後押ししてきました。この日、赤羽国交相は沼袋駅周辺の工事現場を視察し、都の担当者から説明を受けました。

魅力あふれる中野へ

続いて赤羽国交相は中野サンプラザで、中野駅周辺の街づくり事業について区から説明を受けました。駅周辺では現在、市街地の再開発など11の事業が進められています。特に利便性向上が期待されるのが、新たな玄関口となる駅西口の設置と、西側南北通路の建設です。併せて駅舎も新しくなります。



▲新たな街づくりが進む中野駅周辺

中野サンプラザの跡地には、新たなシンボルとなる「NAKANOサンプラザシティ」を整備。最大7000人収容の大ホールやオフィス、住宅、ホテル、商業施設が備えられ、新たな文化の発信拠点となります【詳細は裏面へ】。

席上、酒井直人区長から、街づくり事業に対する安定的な財源確保や国の技術支援などを求める要望書が赤羽国交相に提出されました。

赤羽国交相は、「国もしっかりと支援をしながら、大きな可能性のある中野の街づくりに全力で取り組みたい」と答えました。高倉は「国や区と連携しながら魅力ある街づくりへさらに取り組んでまいります」と述べました。

生まれ変わる中野の街



駅周辺の再開発を一貫して推進 新駅舎のバリアフリー化も実現

高倉良生は、中野駅周辺の再開発を一貫して推進してきました。

かつて市街地活性化のネック(障害)となっていた、13畝を超える広大な警察大学校等跡地には、「中野四季の森公園」をはじめ、東京警察病院、早稲田、明治、帝京平成の3大学、大手企業の本社が入るオフィスビルが誕生し、新たなにぎわいが生まれています。

これからの約10年で、11に上る街づくり事業が計画されており、中野の顔、がさらに生まれ変わります。高倉は引き続き、区民の目線から、一つ一つの事業が着実に進むよう後押ししていきます。



▲NAKANOサンプラザシティ

■中野サンプラザの跡地には、約235畝の複合施設が建設されます(2029年度の完成予定)。中野サンプラザ(92畝)の2.5倍の高さです。

■タワーの低層階に商業施設、中層階に住宅、高層階にオフィスが入り、タワーの北側には多目的ホールとホテルが整備される予定です。

◀新庁舎

■11事業のうち最初に完成するのが、11階建ての新庁舎です。中野体育館跡地で今年7月に建設工事が始まり、3年後の2024年2月に完成、5月に開設予定です。



▲中野駅西口改札・南北通路

■中野駅の西側に新たな駅舎が設けられます。これにより、既存の北口改札と南口改札に加え、2026年12月に西口改札がオープンする予定です。西口改札の前には南北通路も設置されます。

■現在、駅構内にはエレベーターがなく、高倉はバリアフリー化を強く訴えてきました。併せて、ホームドアの設置を求めています。新駅舎にはエレベーターも設置され、駅周辺も含め高倉がめざしてきたバリアフリー化が実現します。